

8月

みんなくウィークエンド・サロン

# 研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分

■この期間展示観覧料は無料です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どんでん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

5日  
(日)

話者：広瀬浩二郎（国立民族学博物館 准教授）  
話題：さわっておどろく「手学問のすゝめ」  
——ユニバーサル・ミュージアムの可能性——  
会場：本館展示場（ナビひろば）

12日  
(日)

話者：加賀谷真梨（国立民族学博物館 機関研究員）  
話題：沖縄の離島社会における高齢者福祉  
会場：本館展示場（ナビひろば）

19日  
(日)

話者：岩谷洋史（国立民族学博物館 機関研究員）  
話題：「身体」について考える：  
酒蔵でのフィールドワークを通じて  
会場：本館展示場（ナビひろば）

26日  
(日)

話者：竹沢尚一郎（国立民族学博物館 教授）  
話題：東日本大震災被災地のまちづくり  
会場：本館展示場（ナビひろば）

## 1年間みんなくは何度でも入館できる「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

- 特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
  - ◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
  - ◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。
- 詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。  
(電話06-6877-8893/平日9:00～17:00)

## 編集後記

日ごろ思っていたことがある。私たちの日常のことは使いのなかに繊維や織りに由来する比喩がとても多いのだ。それも「思考」や「表現」にまつわる言いまわしである。「ことばの綾」「思いを紡ぐ」「詩を編む」「記憶が織りなす……」など、思いつくだけでも結構ある。今でこそ「綾」や「紡ぐ」はもちろん、「織る」という行為さえ、道具とともに日常とは遠ざかってしまったが、かつては身近な存在であったに違いない。だからこそ、このような繊細で抽象的な表現に比喩として用いられたのだろう。調査で訪れるヨーロッパでは、農家はもちろん、一般家庭でもしばしば糸車や糸取り棒などが家具や装飾品として取りおかれ、ほんの少し前までそのような作業が身近にあったことが感じさせられる。ひるがえって日本では今日、織りの文化に触れる機会などほとんどない。9月には特展「世界の織機と織物」が開幕する。どこかに忘れてきた織りの文化へいざなう糸口になればと思う。

(庄司博史)

●表紙：タテ糸にヨコ糸をらせん状に組み合わせることによって織られた管状の織物のモデル。織りあがりのかたちはホースやチューブのように中空となる。

### 次号の予告

特集

## 記憶をつなぐ 津波災害と文化遺産(仮)

月刊みんなく 2012年8月号

第36巻第8号通巻第419号 2012年8月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1  
電話 06-6876-2151

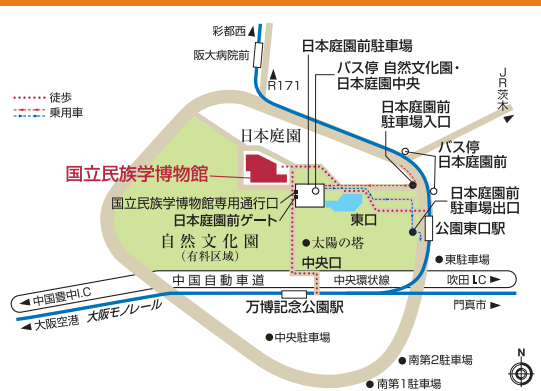
発行人 八杉桂穂  
編集委員 庄司博史(編集長) 小川さやか 樫永真佐夫  
久保正敏 菅瀬晶子 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹  
デザイン 宮谷一敦  
制作・協力 財団法人 千里文化財団  
印刷 日本写真印刷株式会社

\*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。  
\*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

### 交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北七大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園-日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

